奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

令和八年十月度　入賞句一覧　投句数　五百十二句

一般の部

特選

観覧車地球の丸み秋夕焼　　不破郡垂井町　野々部　節子

秋夕焼けのなか、観覧車はゆっくりゆっくり天辺へと昇る。そしてとうとう天辺へ。そう、夕焼けに彩られた地平線はかすかな弧を描いている。あらためて地球は丸いと実感。夕焼のなかの観覧車のシルエットが浮かび上がる。

野分晴のつさのつさと野良の猫　　大垣市　早笘　千恵子

野分が過ぎ、晴れ上がった青空。野分の中、野良の猫はどこに潜んでいたのだろう。太った野良猫が、ゆっくり堂々と、いつもの我が領分を歩いていく。「のつさのつさ」というオノマトペが、猫のふてぶてしくもある姿を捉える。また「の」の三連の重なりは、リズムを生み見事である。

白寿から届くメールや菊日和　　東京都武蔵野市　木嶋　純子

白寿は九十九歳。百歳にあと一歩。今や日本の百歳以上の人口は十万人を超えた。白寿になってもメールが使えるなんて驚き。作家の佐藤愛子は『九十歳、なにがめでたい』なんて、歳を取ることを悔やんだが、なにがここにはスマフォ・ライフを楽しんでいる白寿のお年寄りがいる。「菊日和」が一層のめでたさこ忝う。

秀逸

秋の野に強き音響く馬頭琴　　安八郡神戸町　竹中　元子

月光を手繰り寄せたるチェロの弓　　岐阜市　田中　淳子

三川に義士の松風秋のこゑ　　大垣市　平野　順一

九年目の句会百回鰯雲　　大垣市　井沢　美志津

若さあり林檎をかじる音さへも　　大垣市　村瀬　佐智子

爽籟や声明ひびく大伽藍　　大垣市　浅野　翔泉

ストロー折れ会話続かず虫時雨　　岐阜市　後藤　三恵

冷め切つた珈琲が好き草の花　　東京都新宿区　山崎　力

木曽節の小節の中の秋の声　　三重県鈴鹿市　松井　政典

秋刀魚焼くアルミホイルの波のおと　　本巣郡北方町　谷　弘行

入選

一般の部

秋暑し水の都に黒獅子旗	大垣市	河合　咲子
遠花火今年も同じ木の間より	大垣市	宇佐美　昭子
経を読む雨やまぬ日の金木犀	大垣市	米山　春江
敬老の水のうまさやむすびの地	可児市	増山　重治
珈琲とジャズ借景は稲の波	本巣市	土川　みどり
おいもほり家族のようにせいくらべ	大垣市	佐藤　千賀
白壁に影湧き立つや秋あかね	大垣市	小林　研
さつま芋どんな形も愛らしく	三重県いなべ市	新貝　里美
枝豆の殻を積みあげ世を語る	海津市	水谷　勲一
虫の音の押し掛けてくる奥座敷	大垣市	髙津　喜久子
養老の山に向かって小鳥来る	養老郡養老町	浅井　幸子
凌霄花墨跡太く朱印帳	不破郡垂井町	竹嶋　富美子
木霊して仏法僧は闇の鳥	大垣市	吉田　てるみ
実ざくろや笑い上戸の紅き口	京都府京都市	原　強
秋暑し油まみれの旋盤工	神奈川県横浜市	龍野　ひろし

選者吟

白樺も墓標のひとつ秋夕焼　　さち子

